なんかわからないけど、おもしれえ！ってなって。それで、二週間参加してみて、展示が終わって、上げた床を片付けているときに、めちゃめちゃ楽しかったのに、それを自分が片付けして（終わらせてしまうことに）、号泣してしまって。「こんなに楽しかったのは、初めてです！」「おじょー！」（中崎さんと抱きあう！）みたいなこともあって。それから、ナデガタや中崎さん個人のプロジェクトに呼ばれるようになって、いろんなところに行って参加しています。最初は盲目的に、とりあえずおもしろいから行くって感じだったけど、最近は、ナデガタのプロジェクトって、どういうことなんだろう？って考えるようになって。それもまた、おもしろかったりするんですけど。

？ 中崎さんの第一印象はいかがでしたか？

お） 軽くておもしろいおっさん、みたいな。いいぜ！こいよ！みたいな（笑）とりあえず大丈夫…、大丈夫だから…、みたいな（笑）（中崎さんの真似して、ジェスチャー）

？ あやしい～（笑）

すみす） 以下、す）第一印象？どうだったかな？あまり憶えてないですね。中崎さんと初めて話したのは、とたんギャラリーで、その時、中崎さんは武蔵野美術大学（ムサビ）の博士課程に在籍して、「今度ムサビで展示をやるから」って。おじょうとは、とたんギャラリーではじめて会ったけど話はしていなくて。たまたま、そのムサビの展示で会って、そこで話をして。それから一緒に遊びに行ったりするようになったんです。行く先々で、はじめて会う人とかに、ちょっとおじょうがいない隙に、「あのぅ、おじょうって女の子ですか？」みたいなことをよく聞かれるんですけど、何が言いたいかっていうと…、結構、みんな間違うよね。

？ すいません、私も間違えました（汗）

す） でしょう！（笑）

お） 最近でも、電話口でも間違われる、仕事で（笑）声変わりもしていないんです。でも、この容姿のおかげで、とたんギャラリーでも、ナデガタでも、キャッチーだったらしくて、友達が増えました。こいつなんなんだろう？っていう第一印象を与えることができて、興味を持ってもらえる。それをネタとして、ナデガタでも使ってもらったりして。

す） 何の話だったけ？あ、第一印象か。

お） ムサビの展示は、中崎さんから手伝ってと言われて、手伝いに行っていたんです。そこでも、友達ができました。

す） その展示で観て、すっごい好きな作品があって。「ナレパンダ」っていう作品。それはなにかっていうと、横浜トリエンナーレに、全然呼ばれてもないのに、ナレパンダっていう横トリのキャラクターに勝手に自分がなって、横トリに出没するという（笑）。ナレパンダの歌とかあって。それで、公式キャラクターでも全然ないのに、お客さんがサインをもらいに来たりとか（笑）その映像を観て、大爆笑で。他にも、松田聖子の歌を女装して歌ったりとか、変な作品がいっぱいある。それから、陶芸を集めるのが好きみたいで、陶芸展示しとったよね。

大学を卒業して、服飾の学校に通うために、東京に引っ越してきて、初めて見に行った展示が「インストール・パーティ」で。私が観に行ったのは、展示期間の最後の方で、床は作っていないんですけど。広島の友達から、「おもしろそうな人たちがおって、ちょうど、東京の阿佐ヶ谷で展示しているらしいけえ、行ってみ。」って言われて、それで行ったのがきっかけで。その友達が、私が広島から引っ越すのと同じタイミングで、広島アートプロジェクトのボランティアに参加していて、そのアートプロジェクトにナデガタも参加していて、たまたまナデガタの担当だったんです。ちなみに、そこでのプロジェクトは、デートコースを作るというもので、デートコースを作って、本物のカップルや、そこでカップルにならされた人たちが、デートコースをまわって、指示されたことをやるみたいな内容で。その友達も、それから、ちょいちょいナデガタのプロジェクトに広島から参加していました。彼は今、横浜に引っ越してきて黄金町のスタッフ（*3黄金町エリアマネジメントセンター）をしています。

？ ちなみに、お二人は、美術関係の方ですか？

お） まったく。個人的に写真をやっています。高校生の時に、阿佐ヶ谷住宅と出会うのと同じタイミングで写真を始めて。とたんギャラリーに入り込んでからの、そこでの日々がおもしろすぎて、それを記録しようとずっと撮っていて、それから写真にのめり込んで。大学時代は、写真部の部長をやっていました。今でも写真は続けています。だけど特に美術を専門的に学んだわけではないです。

す） 私も。大学までは広島にいて。狭いからっていうのもあって、おもしろいことをやっている人がいたら、目につくというか。で、たまたま「おもしろいことやっとる人たちがおって、その人たちが、今度映画祭やるみたいじゃけえ、スタッフやってみようよ。」って大学の友達と参加してみたりして、その人たちと関わっていたりしていましたけど。特にアートの勉強しているわけではないけど、そういうおもしろいことが好きな人たちが自然と集まっていましたね。ナデガタのことを教えてくれた友達にしても、そういう勉強をしていたわけじゃないし。その当時、彼はアートのボランティアをすることにはまっていて、「アートボランティスト」という肩書を中崎さんからつけられてました（笑）その延長で、今の黄金町の仕事をしているのもあるんですけど。なんでしょうね、ただ単におもしろいということで動いていましたね。「インストール・パーティ」の時は、みんなが床をつくった時のアーカイブを見て、すごくおもしろそうで、くやしくなって、参加したかった！と思ったので、次のプロジェクトから自分からハイハイハイ！って手を挙げて（笑）参加するようになったんです。一日でダンス公演をつくるというプロジェクトでは、ナデガタから話をもらって、衣裳をやらせてもらいました。

「インストール・パーティ」

？ そういえば、福島大風呂敷で、中崎さんからすみすさんを紹介された時、ダンスの時に衣裳をつくってもらったって聞きましたが、それがその…

す） 「Offline Instant Dance」（*4）っていうそのプロジェクトは、一日でダンス公演を作るんですけど、公演当日までの間、独自のSNSを作って、参加者は、ネット上のそこの場だけで、ダンスの映像を共有したり、グループ割りをしたり、全然関係ない会話もしたりしながら、コミュニケーションをとって、オフ会みたいに当日初めて顔を合わせてダンス公演をするという内容でした。その時もそうだったんですけど、ナデガタって、いつもどのプロジェクトでも、ぎりぎりまで徹夜とかになって、ばーっと追いこんで、なんとかやる！みたいな。

「Offline Instant Dance」

？ 大風呂敷のときみたい…

お） 奇跡的に終わる！みたいな。

す） あまり余裕を持って仕上げるタイプの人たちじゃなくて（笑）私もそうなんですけどね。私の中で、アーティストっていうとあまり人とコミュニケーションを取るのがうまくなくて、我が道行きまくりで、あんまり人とも話そうとしないような、そういう像がなんとなくあったんですけど、ナデガタの人たちって真逆な感じ。むしろコミュニケーション能力に長けているし、だからこそ、いろんな人を巻き込んで、おもしろい作品ができるんだと思うんですけど。

お） 巻き込んでいくのがうまいって言われている。あいつら、巻き込んでいってずるい！みたいな。

す） 自分たちだけで作品を作っているわけじゃないから、いろんな人を巻き込んでいくんだと思うんですけど。巻き込まれながら、うわー、そういう視点で見られているんだ、こわいな～と思うところもある反面、ナデガタのプロジェクトで、おじょうと私が仲良くなったのを、単純に喜んでもらえたりする、そういうところもあって。

？ 福島大風呂敷の時にも、ナデガタの説明をしてくれた時に、「そういう視点で見られているんだ～」とすみすさんが言っていたのを聞いて、印象に残っていたんですよ。

す） 彼らは、私たちとは全然違う視点で見ているから。プロジェクトに参加しているときから、なんとなく言葉の端々から見えてはいたんですけど、前にナデガタのトークイベントで、ナデガタの作品は視点が何層にもなっているという話を聞きました。例えばダンスをするプロジェクトのことだったら、素人が集まって一日でダンス公演をしますって、みんな必死にダンスを覚えたりしてやるんですけど、それはあくまで名目で、それを通して事件とか出来事とかが生まれる様子を俯瞰して見るのが彼らの目的であって、うまくまとめることが目的ではなくて。まとめることをしなきゃいけないから、まとめつつ、すごく冷静な目で見ているんですよ。

？ そこが、普通のイベントとは違うところなんでしょうか。

す） でも、その中で生まれる出来事に、ちょっとじーんとくるものだったり、素敵だなあと思うことがいっぱいあるんです。それから、これは作品と呼んでいいと思うんですけど、震災の後に、中崎さんのブログに、「インスタントライフ」（*5）という文章が載っていて。どこかで何かを展示したというわけではなくて、単純に文章が載っているだけなんですけど、私はいいなあと思って。ナデガタの作品ももちろん好きだし、個人の作品も好きだし。出会えていろいろと変わった。人生が変わったといったら、おおげさかもしれないですけど。

お） あ、でも人生を１８０度変えられてしまったくらいの…。

す） おじょうはそうだよね。

お） 今まで、全然関わったことのないような友達がたくさんできて、そのおかげで、毎年いろいろなところに出かけて泊まらせてもらったりとか。そこで話を聞いたりとか、写真を見てもらったりとか。

す） おじょうはナデガタ周辺の人たち、アーティストの人たちも含めていろんなひとたちとつながって。有名人だもんね、ほんとに。

お） 初めて会う人なのに「おじょうでしょう！」って声かけられたり（笑）

す） そういう意味で、おじょうの存在自体が、ナデガタの作品って言われているよね。私も、東京に来てから初めて観に行った展示がナデガタだったというのもあって、おじょうを含め、ナデガタ絡みの友達がたくさんできて。ナデガタに出会ってなかったら、学校の友達と広島から来た友達とか、人との関わりが、わりとそこでとどまっていたと思うんですけど。たぶん生活が全然違っていたんじゃないですかね。衣裳やらせてもらったのも大きかったし。

お） ナデガタがアートに対する敷居を下げてくれたことによって、ギャラリーをたくさんまわろうと思うようになったんです。ナデガタで知り合ったオーナーさんのギャラリー（新宿眼科画廊）に通ったりして、そこでまた面白い人や作品に出会えたり、大学生のときは刺激されまくりで、それが自分の撮る写真に表れたりして。たぶん周りの友達から受ける刺激とは違った刺激を受けるようになって。すごく楽しい人生になってきた。考えられない、ナデガタがいなかったらどうなっていたか。すごくつまらない人生になっていたんじゃないかな。

す） そういうことを自分の人生と照らし合わせてみたら、ナデガタの存在って不思議なんですよね。ただのアーティストじゃないような…なんだろう、なんかうまくいえないですけど。ナデガタのプロジェクトに参加したら絶対におもしろいって確信があるから、次も参加したいと思うし、参加したら参加したで、すんごい楽しくて、終るとすんごいさみしい。

お） 参加するのに、知識がいらないしね。

す） おじょうは、普通の高校生だったっていうのが、逆にすごく良かったところがあるよね。

お） ナデガタのお手伝いにいっても、どこの美大の人ですか？ってよく聞かれるんですけど。それで思ったのは、美術が美術系の人たちの中でしかまわっていないって印象をみんな持っているかもしれないけど、ナデガタのプロジェクトには普通の人たちがたくさんいて、それがすごいなって思う。

す） むしろ、その中に美大卒の人とかもいるんだけど、全然、そことの差がない。

お） 参加している人たちが、同じ目線で話してくれる。友達みたいな感じで。

す） あと、他のところではすごい人が、なんだかそうじゃない人に見えるとか。

お） 「うどんくん」、でしょう？！（笑）

す） ナデガタの作品が好きな美術評論家の方がいて。学校で先生しているような。その方もダンスのプロジェクトに参加して、与えられた役が、「うどんくん」っていう（笑）

？ ダンスといってもミュージカルみたいなんですね。

お） ストーリーがちゃんとあって、劇みたいな。

す） ちなみに中崎さんは元演劇部なんですよ。そういうことも影響があったんじゃないかな。

お） 劇団むさびっていうムサビの劇団があって、その劇むさの部長だったって。ダンスの作品にもいろんな要素が入っていましたね。

？ プロジェクトの中で、参加している人たちの垣根をなくして、それぞれが普段の肩書から離れて、そこでの役割をふられながら、みんなで作りあげていくっていう感じなんですね。お二人は、いろいろな場所でナデガタのプロジェクトに参加されていますが、その土地の人の反応はどんな感じですか？

す） どこの場所に行ってもうまい、そこの人たちとやっていくのが。どこに行ってもあまり変わりはない気がします。今度、オーストラリアに行くって聞いて、海外すごいって思ったけど、たぶんあんまり変わりはないんじゃないかなって思うし。

お） どこに行っても同じように人を集めてくるのがおもしろい。なんでこんなに人が集まるんだろう。

「中崎透氏の耳」

す） その人その人のキャラクターを引き出すのがうまい気がする。集まった人はわりと普通の人なはずなのに、なぜかおもしろいことになる。

お） 無理やりギャグやらせたりするしね（笑）

？ この新聞のそれぞれのコーナーを決める時も、一人一人と話をしながら決めていって、そのやりとりもおもしろかったですよ。今回の中崎さんのワークショップ、「制活編集支援室」は来年の3月まで続くのですが、なんで新聞やラジオを選んだかという理由は、震災や原発事故後、日々どうなっていくか分からない、そういう状況の中で、どんな状態になっても続けられる媒体という点と、今、何かを発信する時に、震災や原発事故について触れざるをえない空気があるけれど、震災の前と後で、変わらないこともあるのではないか、そんなことも考慮して、様々なことを取り込める媒体が良いのではないかという考えがあったと、中崎さんから聞きました。

お） 今までとは全然違うんだね。一発でおもしろいと感じられるプロジェクトが多かったから。ダンスもそうだったし、人がワイワイ集まって作っていく、祭り的な、一発やってやろうじゃねえか！みたいな感じの（笑）そういうのばっかりだった気がするので。継続的に続けていくものっていうと、常に発信していかなきゃいけないという、プレッシャーを感じるんじゃないかと思う。

す） ナデガタは、短期間で力を注ぐみたいなプロジェクトが、わりと多かったので。一番長くても映画をつくったやつかな？私も、あんまり長期でやっているものには、参加したことがなかったですね。

？ お二人がナデガタに出会って、人生が変わったというぐらいのことがあったというお話を聞いていて、関わる度合にもよるかもしれないですけど、まずは参加してみることで、その人の中で何か変わっていく部分が必ずあるんじゃないかなと思いました。制活が、これからもっと楽しくなったらいいなと思っているんです。アートボランティスト先輩として（笑）、制活に参加している人や、この新聞を読んでいる人たちにメッセージをお願いします！

お） せっかく巻き込む達人がいるので。今日、初めて制活の話を聞いた身ですけど、ちょっと活動に興味を持ったので、できれば仙台の人だけではなくて、インターネットを駆使してでも、アナログな媒体でもなんでも使って、県外の人も巻き込んでいってほしい。今、震災や原発事故の影響もあって、土地によって意識の差が生まれやすくなっていると思うので、意識の差を埋めるのは、土地というよりも、個人の考え方によるところもあるので難しいかもしれないけど、活動の内容を共有できるように、伝えるものがほしい。僕らは現地には行けないかもしれないけれど、（情報を共有することで）僕らも参加したいです。

す） この新聞はこういうものだからっていうよりも、参加している人たちがそれぞれやりたい方向でやってみて、軌道修正は中崎さんに任せたらいいような気がします。自分がおもしろいように、せっかくこういうメディアができたんだから、利用しちゃえばいいんじゃないですかね？ナデガタのプロジェクトに参加する時もそうだけど、彼らの意図がどうのっていうのは彼らのことなのであって、参加する人たちが、自分たちが楽しいようにするのが一番なんじゃないかと思いますね。この新聞が誰に対してものなのか分からないですけど、仙台の人たち向けてなのか、仙台以外の人たちにも向けてなのか。

？ 制活のHPでは、この新聞はPDF化されているので、いろいろなところで見ることができるようになっていると思います。

す） せっかく新聞という紙媒体だから、いろいろなところで実物を見れたら、おもしろいと思いますけどね。県外とかでも。

お） 送ったりして。ギャラリーや喫茶店に置いてもらったりとか。

す） フリーペーパー的にいろいろなところに置いてあったらおもしろい気がする。

お） 僕も、すみすさんもそうだと思うけど、中崎さんのことが好きなので、中崎さんに関わっていきたいし、おもしろいことをやっているのはずるいって思うので、こっちにも伝えてくれよ！みたいな気持ちがあります。

？ 中崎さんにメッセージがありましたら！

お） 結婚しないんですか？って（笑）結婚パーティに呼んでください！

す） これからも、おもしろいことがあれば、じゃんじゃん関わりたいです！

お） おもしろいことは土日にやってください！土日にあったら参加します！

お・す） 仕事を休めるときにやってほしい（笑）

す） 新聞とかラジオを作るのが個人的にすごく好きなんです。前にラジオをやりたいと思って、友達と一回目のラジオ番組の収録はしたんですけど（話に出てきた広島出身のお友達と）、結局二人とも忙しくて、編集できなくて放送もできない（笑）

？ そんなこと中崎さんが聞いたら、すみすさん、制活に呼ばれると思いますよ！お二人ともぜひ仙台に来てください！

現在、中崎さんも参加しているアーティストユニット、Nadegata Instant Partyは「イエローケーキ」を流行らせるべく！？オーストラリアにいる模様。アーティストイン児童館（子どもたちの遊びの場である児童館にアーティストを招聘するプログラム。遊び・創作・表現を通して、子どもたちとアーティストが出会っていく場をつくっていくのが、プログラムの目的。）では、「全児童自動館」というプロジェクトも来春にやるらしい！？今後も気になることばかり。そして、今後の制活もどうなっていくのか…、まだまだ未知数です！（アベ）

２０１１年１０月１６日　新宿「らんぶる」にて

---

*1　Nadegata Instant Party
本末転倒型オフビートユニット。２００６年１２月中崎透＋山城大督＋野田智子により結成。口実化した目的を達成するために他者を誘い合わせ、ひとつの出来事をつくりあげる。
http://www.nadegatainstantparty.org/

*2　とたんギャラリー
２００６年１０月１日～２００７年４月７日、阿佐ヶ谷住宅のテラスハウスに、期間限定を前提として、オープンしていたギャラリー。２００７年４月に、再開発のため、阿佐ヶ谷住宅の取り壊しが決定したことを契機に（再開発については、現在も未定の状態）アートプロジェクトとして「TOTAN GALLERY PROJECT」を開始。それは、作家が作品をつくり、見せ方を考え、オーディエンスが敷居を跨いで作品を観に訪れる。そして非 作家である住民がそこで生活し続けるという、実験的アートプロジェクト。
http://blog.totan-gallery.com/

*3　黄金町エリアマネジメントセンター
地域、行政、企業、大学、警察の協力のもとに NPO 法人を設立、アーティストや新しいショップの誘致、地域との連携、「黄金町バザール」の開催、アーティスト・イン・レジデンスなどの事業を展開している。
http://www.koganecho.net/

*4　「Offline Instant Dance」
２００８年、Nadegata Instant Partyとしての赤坂アートフラワー参加作品。公募で集まった素人ダンサーとネットを介してコミュニケーションをとり、公演本番当日に集合し一日でダンス公演を作り上げたプロジェクト。

*5　「インスタントライフ」
中崎が２０１１年３月末に個人のブログ上に掲載。
http://tohru51.exblog.jp/16100626/